

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="635 734 1171 1106"><tr><td data-bbox="635 734 900 920">1</td><td data-bbox="900 734 1171 920">2</td></tr><tr><td data-bbox="635 920 900 1106">3</td><td data-bbox="900 920 1171 1106">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0082
0083
0084
0085

所 第四軍第一一九師團部隊名野砲兵第一一九聯隊(二)

通稱號 滿 二〇四八二八

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	員人制編	隊別	隊長名	開入時	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソ迄の變動	隊別計	滿洲殘留
1/1及1/10は 歩工五四聯隊の戦斗参加ヲ スル東方三野の地點 略二〇、八、一二 十五砲及野砲連成一大隊を 編成 白雲子附近に駐屯 (中中主力) (12中主力) (10中に除く) 二〇、八、一七 海虎隊に於て武解主力は所 在にて武解(二〇、八、二 三) 二〇、九まで 隊免附にて經作業 二〇、一〇、八 管内少佐指揮作業大隊を編 成「入ソ」せり (二、五〇〇名)					第五 隊中四第	中尉 安倉安太郎	170	右同					
					第二 隊中三第	中尉 小池 龍藏 少尉 上川東一郎	170	右同					
					第二 隊本隊	大尉 富坂 (六中長兼務) 副官 中尉 櫻木 主少尉 櫻木	107	右同					
					第四 隊中	少尉 杉山 英三 少尉 櫻庭	170	右同					
					第五 隊	中尉 中原 孝義 少尉 大原 孝義 准尉 大原 孝義	75	右同					

團部隊名野砲兵第一一九聯隊(二)

通稱號 滿 二〇四八一

郵便所名

出		編		隊		別	
年以降		員人制		隊		別	
隊中四第		列段隊大二第		部本隊大二第		隊中三第	
中尉 中原 孝義 少尉 原口 大下	中尉 杉山 英三 少尉 櫻庭	中尉 安倉 安太郎	大尉 富坂 (六中長兼務) 副官 中尉 櫻木 主少尉 櫻木	中尉 小池 龍藏 少尉 上川 東二郎	隊長名 (内は先代を示す)	戰鬥間 の状況 及損耗	終戦後 の人員 變動
170	107	170					
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	駐屯地		
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	戰鬥時		
聯本と行動を共にす	邊田隊と行動し戦平せず		二〇、八、二〇 新南島よりチノ、ハルへ後送	戦平せず			
					作業大隊より 入ソ返の變動		
					入ソ人員		
					隊別計		
					滿洲殘留		
					收容所名		
					所入		
					死亡		
					滿洲より 領		
					歸還人員		
					者		
					狀況不明		
					致		

ス、ル、東、方、三、ヶ、の、地、點

隊二〇、八、一、二
十五隊及野砲連成一大隊を
編成
自、衛、隊、近、衛、隊、隊
(中、主、力)
(12中、主、力)
(10中、は、除、く)

二〇、八、一、七
砲兵隊に於て、武器主力は、同
様に、武、解、(二〇、八、二、
三)

二〇、九、五、で
砲兵隊にて、解、作、業

二〇、一〇、八、
砲兵少佐指揮作業大隊を編
成「八」せり
(五〇〇名)

隊 中 六 第	隊 中 五 第	隊 中 四 第	列 段 隊 大 二 第	部 本 隊 大 二 第	隊 中 三
中尉 藤富 准尉 太田	中尉 中原 孝義 少尉 原口 准尉 大石	少尉 中島 格 少尉 杉山 英三 少尉 櫻庭	中尉 安倉 安太郎	大尉 富坂 副官 (六中長兼務) 中尉 櫻木 主査尉 櫻木	
170	175	170	107		170
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
戦斗せず	藤木と行動を共にす	後留隊と行動し戦斗せず		二〇、八、二〇 新隊よりテ、ヘル、後退	

隊中第六第	隊中第五第	隊中第四第	列段隊大二第	部本隊大二第	隊中第三第
中尉 藤富 准尉 太田	中尉 中原 孝義 少尉 原口 准尉 大口	中尉 中島 英三 少尉 杉山 櫻庭	中尉 安倉 安太郎	大尉 富坂 副官 (六中長兼務) 中尉 楊木 主文尉 櫻木	
170	175	170	107		170
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右
闘斗をす	藤木と行動を共にす	渡田隊と行動し闘斗をす		二〇、八、二〇 新潟県よりテ、ハルへ發進	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="635 741 1174 1115"><tr><td data-bbox="635 741 895 931">1</td><td data-bbox="895 741 1174 931">2</td></tr><tr><td data-bbox="635 931 895 1115">3</td><td data-bbox="895 931 1174 1115">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0085
0087
0088
0089

第四軍第一一九師團部隊名 野砲兵第一一九聯隊 (三)

通稱號 滿二〇四八八一

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	眞人調編	別除	隊長名	戰鬥間	駐屯地	戰鬥中の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソノ迄の變動	入ソノ人員	滿洲残留
		十九年以降	十九年以降			(内は先代を示す)							
第九	隊中第八	隊中第七	列段隊六三第	部本隊大三第									
中尉 齊藤 實 人事係 曹長 今村 勉	中尉 平 榮次 少尉 齊藤 義雄 少尉 小竹 剛三	中尉 金定 江橋	中尉 山中 禮三	副官 今里 秀雄 中尉 山本 明 少尉 橋本 中西					昭二〇、八、九、A B 砲隊開設附近にて陣地構築中、二〇、八、一〇 第三大隊本部 SA イソノクニに砲撃 B 主力に陣地に入る。部隊本部 SA 第三大隊本部 ハルビンに同く奮闘す。				
0	165	160	70	70									
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同									
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同									
奮闘す、 255c と行動を共にす。	奮闘す、ハルビンに轉進す。	第七中隊江橋中尉以下三名奮闘江橋中尉戦死 一中小と行動す。											

野砲兵第二一九聯隊 (三)

通稱號 滿二〇四八二八

郵便所名

隊長名 (内は先代を示す)	戦闘人 時員	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソノ迄の變動	入ソノ人員		滿洲残留	收容所			歸還人員 計	状況不明 者數
		平	戰				隊別	計		收容所名	所入員	死亡		
少佐 山下 文三 副官 今里 秀雄 中尉 今里 秀雄 中尉 橋本 明 少尉 橋本 明 少尉 中西	70	右	同	昭三〇、八、九 AB 砲安松附近にて 陣地構築中、二〇、八、一〇 第三大隊本部 SA II A イレクテに進駐、主力は陣地に入る。 聯隊本部 SA 10 第二大隊本部ハルビンに向ふ 戦闘せず										
中尉 山中 禮三	70	右	同											
中尉 金定 中尉 江橋	160	右	同	第七中隊江橋中尉以下三名戦闘江橋中尉 戦死 一中小と行動す										
中尉 平 榮次 少尉 齊藤 義雄 少尉 小竹 剛三	165	右	同	戦闘せず、ハルビンへ轉進す										
中尉 齋藤 實 人事係 今村 勉 曹長 今村 勉	30	右	同	戦闘せず 255c と行動を共にす										

部本隊天四第	隊中九第	隊中八第	隊中七第	列段隊大三第	部本隊大三
大尉 佐藤 主計少尉 宮原 重警少尉 五十嵐	中尉 齋藤 人事係 今村 曹長 勉	中尉 平 少尉 齋藤 少尉 小竹 義雄 剛三	中尉 金定 中尉 江橋	中尉 山中 中尉 禮三	少尉 橋本 少尉 中野 中尉 山本 明
4	160	165	160	70	70
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
戦せず 八一九チハルへ轉送す	戦せず 255と行動を共にす	戦せず ハルへハルへ轉送す	第七中隊江橋中尉以下二三名戦死 江橋中尉 一中小と行動す		戦せず ハルへハルへ轉送す

部本隊六四第	隊中九第	隊中八第	隊中七第	列段隊大三第	部本隊大三
大尉 佐藤 主計少尉 宮原 正警少尉 五十嵐	中尉 齊藤 人事係 曹長 今村 勉 賞	中尉 平 少尉 齊藤 小竹 剛三 義雄	中尉 金定 中尉 江崎	中尉 山中 禮三	中尉 山本 勇 少尉 橋本 中西
4	160	165	160	70	70
右同	右同	右同	右同	右同	右同
右同	右同	右同	右同	右同	右同
戦斗せず 八、二九 チ、ハルへ海進す	戦斗せず 255c と行動を共にす	戦斗せず ハルビンへ海進す	第七中隊江崎中尉以下三名戦半江崎中尉 戦死 一中小と行動す		第六中隊 SA 第三大隊本部ハルビンに向ふ 戦斗せず

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="624 745 1161 1115"><tr><td data-bbox="624 745 884 931">1</td><td data-bbox="884 745 1161 931">2</td></tr><tr><td data-bbox="624 931 884 1115">3</td><td data-bbox="884 931 1161 1115">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0090
0091
0092
0093

第四軍第一一九師團部隊名野砲兵第一一九聯隊(四)

通稱號 滿二〇四八一八

郵便所名

全般概要					轉入	轉出	人員編	別	隊	隊長名	戰時人員	駐屯地	戰鬥間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ソの變	隊別計	入ソ人員	滿洲殘留																																														
十九年以降					十九年以降			第四大隊隊列	第十中隊	第十一中隊	第十二中隊	第十三中隊	第十四中隊	(内は先代を示す)																																																		
中尉 北山 一彦 指揮班 少尉 坂倉 十一					中尉 酒井 義雄 少尉 豊田 達行					中尉 北山 一彦 (兼務) 大尉 太田綾三郎 少尉 山田					中尉 鈴木 和夫 (大尉 佐田 隆根) 少尉 中野 少尉 南					160					175					170					178																													
右 同					右 同					右 同					右 同					右 同					右 同					ハルビン(前進)					イルクツの二五五線へ進軍 八、一九、戰鬥 又二門(即死二、重傷四、輕傷三 イルクツ終戦 フハトにて武裝解除、各内少佐の指揮に入る					イルクツの二五五線へ進軍					不明主力 2,370名 副官 480名 計 2,857名																			

部隊名 野砲兵第一一九聯隊 (四)

通稱 滿二〇四八二八

郵便所名

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	開入 人員 時間	駐屯地		戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ連の變動	入ソ連人員 除別計	滿洲殘留	收容所		歸還人員 計	状況不明 者數
			平時	戦時						收容所名	所入 死亡		
第四大隊隊列	中尉 北山 一彦 指揮班 少尉 坂倉 十一	160	右	同	ヘルピンへ進出								
第十隊	中尉 酒井 義雄 少尉 豊田 達行	175	右	同	一部歩二五四聯隊の戦斗に参加し馬耳東方三谷地點								
第十一隊	中尉 北山 一彦 (兼務) 二〇、七、末 大尉 太田 三郎 少尉 山田	170	右	同	イルクトの二五五連へ配属 八、一九、戦斗 火砲二門、即死二、重傷四、輕傷三 イルクト終戦 ブハトにて武装解除、宮内少佐の指揮に入る								
第十二隊	中尉 鈴木 和夫 (兼務) 大尉 佐田 盤根 少尉 中野 中川 少尉 南	178	右	同	イルクトの二五五連へ配属								

主力 2,370名 計 2,857名
拉海 480名

	隊中二十第	隊中一十第	隊中十第	列段隊六四
	中尉 鈴木 和夫 少尉 佐田 肇根 少尉 中川 少尉 中野 少尉 南	中尉 北山 一彦 二〇、七、末 (兼務) 大尉 太田 綾三郎 少尉 山田	中尉 酒井 義雄 少尉 豊田 逸行	
開嶺主力 2,370名 計 2,857名 爾拉海 480名	178	170	175	160
	右 同	右 同	右 同	
	右 同	右 同	右 同	
	イラクの二五五連へ配属	イラクの二五五連へ配属 八、一九、即死二、重傷四、重傷三 イラクに到着 ブハトにて武装解除、宮内少佐の指揮に入る	一部二五五連隊の残部を率いて、イラク東部地方 三谷地帯	ヘルモンへ帰途

少尉 坂倉 十一	中尉 酒井 義雄 少尉 豊田 達行	中尉 北山 一彦 (兼務) 大尉 太田綾三郎 少尉 山田	中尉 鈴木 和夫 (大尉 佐田 隆根) 少尉 中川 少尉 中野 少尉 南	
160	175	170	178	閉鎖主力 2,370名 計 2,857名 爾拉梅 480名
右	右 同	右 同	右 同	
右	右 同	右 同	右 同	
ハルビンへ警備	一部歩二五五部隊の警備に多田中尉が東京方面地帯	イルクトウの二五五部隊の警備 八、一九、隊員 火砲二門、即死二、重砲四、砲三 イルクトウ終戦 プラトにて武装解除、官内少佐の指揮に入る	イルクトウの二五五連へ配属	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="619 712 1152 1084"><tr><td data-bbox="619 712 874 898">1</td><td data-bbox="874 712 1152 898">2</td></tr><tr><td data-bbox="619 898 874 1084">3</td><td data-bbox="874 898 1152 1084">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

隊小材器	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部	本	別	隊
	中尉 谷口	中尉 酒井 兼好	中尉 草浪		少佐 村上 亮二 副官 安田 俊夫 (歸還)	隊長 名 (内は先代を示す)	隊
						戦闘間 人員 戦時 戦時 戦時	駐屯地
右同	右同	右同	右同	右同	爾拉海		
右同	右同	右同	右同	右同	嶺安興 (濶南新部一)		
							戦闘間の状況及損耗
							終戦後の人員變動
							作業大隊より 入「ソ」迄の變動
							入「ソ」人員 隊別 計
							滿洲殘留
							收容所名
							所入 死亡
							滿洲より 領 計
							歸還人員、 状況不明 者 数

隊名 工兵第一一九聯隊

通稱號 滿二〇四九五

郵便所名

二〇、八、九
 谷口に陣取り、三〇〇名ハ、
 シルに在りしと雖も、同時
 に主力と合す
 (途中落伍者及行方不明者
 多数あり)
 突撃にて陣地構築中、中
 隊と戦半肉攻す
 二〇、八、一五
 陣地構築中、突撃
 二〇、八、一六
 富拉爾基にて武装解除
 テ、ハル(行軍九月二日第
 一次到着九月十一日第二
 到着松橋屯にて合併
 二〇、九、一
 第一次作業隊田邊五二〇名
 二〇、九、一
 第二次作業隊田邊九五五名
 齊々哈爾濱隊一〇〇名
 二〇、九、一七
 松橋屯出發
 二〇、九、二〇
 滿洲里國境通過チタイルク
 一ツク經由
 二〇、九、二六
 クラスノヤルスタ地區ニモ
 一ドン經由
 村山作業隊一五〇〇名
 (一部混成隊を含む)
 (インセル與突撃移動部隊
 戦車の防衛徒歩なる故、突
 撃自動車三台編成免河渡附
 近に於て不意に敵戦車に遭
 遇す
 二台破壊、一五名戦死セリ
 一台急轉回避せるも死体
 確認せず

定員 938名
 聯隊全員 1,200名

本部	第一中隊	第二中隊	第三中隊	器材小隊
中尉 安田 俊夫 (長官)	中尉 草薙	中尉 酒井 兼好	中尉 谷口	
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
右 同	右 同	右 同	右 同	右 同

	隊 小 材 器	隊 中 三 第	隊 中 二 第	隊 中 一 第	部
		中尉 谷口	中尉 酒井 兼好	中尉 草根	(陸軍)
	右 同	右 同	右 同	右 同	一 尉
	右 同	右 同	右 同	右 同	少 将 (海軍)

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="644 707 1177 1077"><tr><td data-bbox="644 707 903 891">1</td><td data-bbox="903 707 1177 891">2</td></tr><tr><td data-bbox="644 891 903 1077">3</td><td data-bbox="903 891 1177 1077">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0098
0099
0100
0101

第四軍第一一九師團 第一一九師團通信隊

通稱號 辛二〇四一六六

郵便所名

全般概要					昭一九、九、一	昭二〇、五	昭二〇、五 部隊主力は保安隊に移 主力は保安隊に陣地構築中 明瞭となり戦時間は開戦新 南滿洲地の通信業務に従事 す機密は無かつた様である		
轉入					十九年以降	轉出			
人員編制					人員編制				
隊別		本隊		隊別					
隊長名		少尉 佐藤年五百		隊別					
駐屯地		爾拉		隊別					
戦間状況及損耗		右同		隊別					
終戦後の人員變動		右同		隊別					
作業大隊より入ソノ返の變動		右同		隊別					
入ソノ人員		右同		隊別					
滿洲残留		右同		隊別					
收		右同		隊別					

隊名 第一一九師團通信隊

通稱號 滿 辛二〇四二一六六

郵便所名

隊別	本部	隊小一線有	隊小二線有	隊小一線無	隊小二線無
隊長名 <small>(大内は洗衣と隊務)</small>					
開人 時員					
駐屯地 平 爾拉海時 戰 安 嶺 嶺南					
戰鬥間の狀況及損耗					
終戦後の人員變動					
作業大隊より 入「ソ」迄の變動					
隊別 計					
入「ソ」人員					
滿洲殘留					
收容所名					
所人 死亡					
歸還人員 滿洲「ソ」領 よりより計					
狀況不明 者一數					

二〇、八、一五
 別働新軍にて武備後チ、
 ヘルに集結、主力は作業第
 九大隊、佐々木は作業十三大隊
 に編入されアルチョウム、
 ベルハ、ニコロビン、ブル
 ーハ各收容所に入所
 有線
 下士官 一三〇
 兵 一三〇
 (二ヶ小隊)
 無線
 下士官 八〇
 兵 八〇
 (二ヶ小隊)
 計 二四一名

部	隊小一線有	隊小二線有	隊小一線無	隊小二線無	隊小材器
			少尉 佐藤年五百		
	右同	右同	右同	右同	右同
	右同	右同	右同	右同	右同

	隊小材器	隊小二線無	隊小一線無	隊小二線有	隊小一線有	部	本
				少尉 佐藤年五百			
	右同	右同	右同	右同	右同	右同	右同
	右同	右同	右同	右同	右同	右同	右同

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="639 689 1171 1061"><tr><td data-bbox="639 689 900 875">1</td><td data-bbox="900 689 1171 875">2</td></tr><tr><td data-bbox="639 875 900 1061">3</td><td data-bbox="900 875 1171 1061">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0102
0103
0104
0105

所 第四軍第一一九聯隊
部隊名 韓軍兵第一一九聯隊

通稱號 卒二〇四九九八

郵便所名

全般概要		轉入	轉出	定員 1,022名				
<p>昭二〇、六、一 海軍海軍少佐に就任</p> <p>二〇、八、一六 真室松原地より後退すべく 本隊中ノ軍械庫の取寄を受け 急遽海軍少佐に就任 (ノ記二五三)</p> <p>この戦中に於て戦死傷者十 二、三名生ず</p> <p>ノ軍械庫と同時に留守隊は 本隊と合すべく移動中約六 割の戦死又は脱走を生ず 三七〇名位は本隊に合す 博克圖附近にて友軍埋地雷 雷のため五、六名負傷、四 名死亡す</p> <p>二〇、八、一七 博克圖に於て武備九、二等 で博克圖陸軍病院に收容さ るる</p> <p>現地名解者なし 博克圖に於て作業大隊へケ 大隊を編成す</p> <p>二〇、九、三 博克圖陸軍病院の途中逃亡に より銃殺又は砲撃により殺 害一三〇名位あり</p> <p>二〇、九、三 クラスノヤルスタ地区チヤ イナゴールヌスカヤ牧場所屬</p>		十九年以降	十九年以降					
隊別	本	部	第一	第二	第三	第四	編制人員	
隊長名	中尉 小野房信夫			中尉 石井	中尉 笹岡健太郎	中尉 門田		
駐屯地			右同	右同	右同	右同		
戦闘間の状況及損耗								
終戦後の人員變動								
作業大隊より入ソシ迄の變動								
隊別	入ソシ人員							
計								
滿洲残留								

部隊名

輜重兵第一一九聯隊

通稱號

卒二〇四九八

郵便所名

隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部本	別隊
中尉 門田	中尉 笹岡健太郎	中尉 石井	中尉 小野房信夫		隊長 名 少佐 坂本代を部す
右同	右同	右同	右同	爾拉海	駐屯地
右同	右同	右同	右同	嶺安興嶺	駐屯地
戦闘間の状況及損耗					
終戦後の人員變動					
作業大隊より入ソノ迄の變動					
隊別計					
滿洲殘留					
收容所名					
收容所					
死亡					
滿洲より歸還人員計					
者數					

二〇、八、一六一
 現地召解者なし
 博克圖に於て作業大隊一ヶ
 大隊を編成す

二〇、八、一七
 博克圖に於て武解九、二
 博克圖に於て作業大隊一ヶ
 大隊を編成す

二〇、九、三
 博克圖發給途中逃亡に
 より銃殺又は強盗により發
 給一三〇名位あり

二〇、九、三
 クラスノヤルスク地區チヤ
 イナゴールスカヤ收容所發

定員 1,022名

部	隊中第一	隊中第二	隊中第三	隊中第四	隊中第五
	中尉 小野房信夫	中尉 石井	中尉 笹岡健太郎	中尉 門田	中尉 平 榮一
	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同
	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同

	隊中五第	隊中四第	隊中三第	隊中二第	隊中一第	部
	中尉 平 榮一	中尉 門田	中尉 笹岡健太郎	中尉 石井	中尉 小野房信夫	
	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	
	右 同	右 同	右 同	右 同	右 同	

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="639 707 1171 1077"><tr><td data-bbox="639 707 900 891">1</td><td data-bbox="900 707 1171 891">2</td></tr><tr><td data-bbox="639 891 900 1077">3</td><td data-bbox="900 891 1171 1077">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0106
0107
0108
0109

第四軍第一一九師團部隊名第一一九師團兵器勤務隊

通稱號 宰 一一二九九四

郵便所名

全般概要	轉入	轉出	員人制編	別、隊	隊長名 ()内は先代を示す 中尉 浦澤 秀二	戰時	駐屯地 爾拉海 圖克博	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ造の變動	入ソ人員 隊別計	滿洲殘留	收
昭三〇、五、十一 海拉爾にて編成 本部 三ヶ班 人員二二〇名 貨物自動車 一二 小銃 三〇 二〇、八、九 海克崗に移動 二〇、八、一五 海克崗にて改編 二〇、八、二二 ナ、ハル收容所に移動 二〇、一〇、一三 ナ、ハルにて作業十三大隊 編成(四〇名編入) 二〇、一〇、二二 トリモスカヤ收容所	十九年以降	十九年以降	120名										

陸軍部 隊名 第一一九師團兵器勤務隊

通稱 號 宰 一 二 九 九 四

郵便所名

120名		員人制編	
		別 隊	
		隊長名 ()内は先代を示す 中尉 浦澤 秀一	
		戦 闘 人 時 員	
		駐 屯 地 平 時 戦 時	
		戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗 爾拉海 阿克海	
		終 戦 後 の 人 員 變 動	
		作 業 大 隊 以 外 入「ソ」迄の變動	
		入「ソ」人員 隊 別 計	
		滿 洲 殘 留	
		收 容 所 名	
		所 入 死 亡	
		滿 洲 以 外 領 土 計	
		歸 還 人 員 狀 況 不 明 者 数	

本部
三ヶ所 人員二〇名
突撃自衛隊 一二
小銃 三〇

二〇、八、九
海軍監獄に移動

二〇、八、一五
海軍監獄にて武庫

二〇、八、二二
ナ、ハル收容所に移動

二〇、一〇、一三
ナ、ハルにて作業十三大隊
編成(四〇名編入)

二〇、一〇、二二
トリモヌカヤ收容所

120名

海軍
監獄

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="632 701 1169 1070"><tr><td data-bbox="632 701 895 887">1</td><td data-bbox="895 701 1169 887">2</td></tr><tr><td data-bbox="632 887 895 1070">3</td><td data-bbox="895 887 1169 1070">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A3判以上のため				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0110
0111
0112
0113

所屬 第四軍第一一九師團部隊名第一一九師團衛生隊

通稱號字 二〇四九一

郵便所名

全般概要		
轉入 十九年以降		
轉出 十九年以降		
編制人員		
隊別		
隊長名 (内は先代を示す)		
職階	駐屯地	
職員	平	時
時	時	時
戰鬥間の状況及損耗		
終戦後の人員變動		
作業大隊より 入ソ」迄の變動		
隊別計	滿洲殘留	

部隊名第一一九師團衛生隊

通稱 號字 二〇四九二

郵便所名

降	編制人員
別	隊
隊長名	()内は先代を示す
時員	戰 限人
平時	駐屯地
戰時	戰時
戰鬥間の状況及損耗	
終戦後の人員變動	
作業大隊より入「ソ」迄の變動	
隊別計	入「ソ」人員
満洲残留	
收容所名	收容所
死亡	死亡
より満洲より	歸還人員
計	計
者数	状況不明

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="630 772 1165 1153"><tr><td data-bbox="630 772 885 963">1</td><td data-bbox="885 772 1165 963">2</td></tr><tr><td data-bbox="630 963 885 1153">3</td><td data-bbox="885 963 1165 1153">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0114
0115
0116
0117

第四軍第一一九師團部隊名 第一一九師團第一野戰病院

通稱 號 滿一〇四九二六

郵便所名

全般概要	昭和二〇、八、一〇編成 ハルビンに二〇、八、一 五に移動 重傷者は海拉爾より札幌 に移し更にハルビン第一陸 軍病院と合併業務を發行中 ハ、一五武隊となる	轉入	轉出	編制人員	約 100名	隊別	隊長名	隊員	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソの變動	入ソ人員	滿洲殘留	收容
		十九年以降	十九年以降				軍醫少佐 加藤 (内は先代を示す)	三〇名 三〇名 四〇名 三〇名	爾拉海 爾拉海						

名 第一一九師團第一野戰病院

通稱號 滿一〇四九九六

郵便所名

別 隊 隊長 名 () 内は先代を不す	軍醫少佐 加藤	職 類 醫 師 時 員	三〇名 三〇名 三〇名 三〇名 三〇名 三〇名 三〇名	駐 屯 地	爾拉海	戦 闘 間 の 状 況 及 損 耗		終戦後の人員變動		入ッ人員 計	作業大隊より 入ッ返の變動	満洲残留		收 容 所	收 容 所 名	所 入 死 亡		輸 送 人 員 計		状 況 不 明 者 数	
----------------------------	---------	-------------------	---	-------	-----	-------------------	--	----------	--	-----------	------------------	------	--	-------	---------	---------	--	-----------	--	-------------	--

くろまにひいひい
用代紙
創設時
五等七区
約100名
八、一用紙

約 100名

三〇名
三〇名
三〇名
三〇名
三〇名
三〇名

三〇名

三〇名

生業一二六
三〇名
八二二〇〇名
三〇名

阿拉海
阿拉海

三六六
二〇〇
二〇〇
二〇〇

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	<table border="1" data-bbox="635 734 1174 1111"><tr><td data-bbox="639 741 895 920">1</td><td data-bbox="895 741 1169 920">2</td></tr><tr><td data-bbox="639 920 895 1106">3</td><td data-bbox="895 920 1169 1106">4</td></tr></table>	1	2	3	4
1	2				
3	4				
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め				
上記のとおり分割撮影した事を証明する。					

0118
0119
0120
0121

所 属 第四軍第一一九師團 部隊名 第一一九師團第二野戰病院
通稱 號 滿一〇二九九三七
郵便所名

全般概要		轉入		轉出		人員編制		隊別		隊長名 ()内は先代を示す		個人 戦員 平時 戦時		駐屯地		戦間期の状況及損耗		終戦後の人員變動		作業大隊より △「ソ」迄の變動		隊別 計		入ソ人員 満洲残留	
		十九年以降		十九年以降																					

隊名 第一一九師團第二野戰病院

通稱 號滿二〇四九九三七

郵便所名

隊別	隊長名 (内は先代を示す)	開入		駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入ッの變		滿洲殘留	收容所		歸還人員 計	状況不明者數
		戦時	平時				隊別	計		收容所名	所入死亡		

